

3月から購読料改定(月ぎめ400円→500円)と全ページカラー紙面に!

「赤旗」とともに

「東京民報」をお読みください!

日本共産党の首都での頑張りを報道!

新しいムーブメントを追跡!

市民と野党の共闘を支える新聞!



3面上掲載の、人物紹介「とうきょう人」と、東京選出の衆参の国会議員のコラムは、東京民報の人気の記事です。これらも写真がカラーになるので、より魅力あるコーナーになります。

物価高騰のなか、ご負担をお願いするのは心苦しい限りです。2月5日付の購読料改定の社告に、「2008年の再週刊化以来、値上げせず、よく頑張ってきましたね」「感謝を込めて賛同します。引き続き、毎週の紙面を楽しみにしています」などの感想をいただき、改めてより良い紙面づくりを決意しています。紙面のオールカラー化は読者からの要望も強く、期待と歓迎が寄せられています。2、3面の写真や図表もカラーになることで、同じスペースのなかでも、より豊かな情報を届けることができ、視覚的にもより分かりやすい紙面になります。それを活かして、統一地方選の争点や、各自自治体で粘り強く成果を切り開いてきた共産党議員団の役割、各分野の都民の運動、地域のほっとする話題など、たたかいて暮らしたに役立つ情報を掲載していきます。



購読料500円・オールカラー化で紙面はどんな風になりますか?

先日、インタビューしたある文化人の方からは、「インターネットで知りたいことを検索すると、東京民報の記事に行き当たることがよくある。部数以上に重要な役割を果たされている新聞だと、以前から思っていました」と評価していただきました。



最近の報道で反響が大きかったものはなんですか? 統一地方選に挑む予定候補の日本共産党との出会いと人生ドラマを紹介する「挑戦」シリーズに、「楽しみにしている」「勇気をもたらった」など多くの感想が寄せられています。多摩地域の水道水の有機フッ素化合物汚染の特集記事は大きな話題を呼び、東京民報のWEBページに数万件のアクセスがありました。 「WEB東京民報」のアクセスランキングを見ると、上位には常に、各地の再開発や道路建設に反対する住民運動、パワハラや不当解雇とたたかう労働者の記事が入ります。読者からも、「各分野で運動に取り組む人たちの記事に励まされる」という感想がよく寄せられます。 東京民報は都民の運動とともにある新聞なのだ実感しています。



さらなる跳躍をめざす「東京民報」 荒金哲編集長に聞きました!

心機一転

購読の申し込みは? お名前 _____ 電話番号 _____ 住所 _____ お近くの日本共産党事務所・議員事務所まで。または東京民報社 FAX03-3798-4032 東京民報社 電話 03-3798-4030 まで 東京民報ホームページからも申し込みます。 QRコードはこちら→



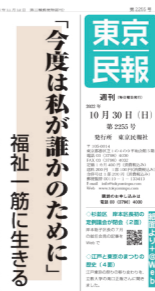
WE CAN SEE TOKYO! CHANGE TOKYO! 2008年再週刊化から15年

編集部から訴えたいことはなんですか?
●「東京民報」を支え、読者を広げてください

(表面から続く)

読者のみなさんの役に立ち、新聞を開くのが楽しみになる紙面をつくろうと日々、努力しています。読者のみなさんや、各地・各分野で運動に取り組むみなさん、地方議員のみなさんから寄せられる情報や感想が、紙面を充実させるうえで不可欠です。より良い紙面づくりに、ぜひご協力をいただければ幸いです。

若い世代では、ニュースはインターネットで読むのが当たり前



前になっっている中で、WEB東京民報をニューサイトとして位置づけ、そこでの発信やSNSでの拡散にも力を入れています。SNSなどでの情報の拡散にもご協力をお願いします。



オールカラーを継続し、経営を安定させ、「東京が見える、東京を変える」新聞としての役割を発揮するには、より多くの方に読者になっていただくことが欠かせません。どうかぜひ、周りの方に購読をすすめていただき、読者を広げる活動にも、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

「東京民報」2月5日号に掲載の「社告」

購読料改定のご理解、ご協力をお願いします

東京民報社は3月5日号から、本紙の月ぎめ購読料を、現在の400円から500円(郵送の場合は600円から700円)、一部売りは現在の100円から130円(いずれも消費税込み)に改定いたします。

物価高騰のなか、ご負担をお願いするのは誠に心苦しい限りですが、紙面の全面カラー化とあわせ、みなさまのお役に一層立てるよう紙面づくりに全力を尽くします。引き続きのご愛読をお願い申し上げます。

東京民報は2008年6月に再週刊化して新たなスタートを切り、まもなく15年を迎えます。

首都東京における市民と野党の共闘の発展、若い世代・現役世代の新たな運動を伝える新聞、日本共産党や民主勢力の共同の新聞として、さらには、暮らしに役立つ読者に身近で地域密着の情報を伝える新聞、東京の自然や文化、芸術を楽しく豊かに伝える新聞として、役割を発揮するよう努力を続けてきました。

この15年間には、二度にわたり消費税が増税されたほか、物価や水光熱費の高騰、用紙代や印刷費用をはじめとした新聞製作コストの増大が続きました。

新聞各紙もこの間、消費税増税に合わせた購読料改定や、購読料の値上げを複数回にわたって行ってきましたが、東京民報社は、新聞製作の合理化や、経費節減などの経営努力により、再週刊化当初の月400円(郵送600円)の価格を維持し



▲東京民報 ツイッター



▲東京民報 インスタグラム



「東京民報」は、WEBも強化中。「東京民報」ツイッターやインスタグラムなどネット・SNSの上でも奮闘中。どうぞ、アクセス・フォローなどしてください。WEB紙面版もあります。

1ヶ月無料! お試し読み キャンペーン実施中

